④　様々な食品や調理形態に慣れ、ゆったりとした雰囲気の中で食事や間食を楽しむ。
⑤　身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身に付く。
⑥　保育士等の助けを借りながら、衣類の着脱を自分でしようとする。
⑦　便器での排泄に慣れ、自分で排泄ができるようになる。

(ｳ)　内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。

①　心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、子どもの気持ちに配慮した温かい触れ合いの中で、心と体の発達を促すこと。特に、一人一人の発育に応じて、体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。
②　健康な心と体を育てるためには望ましい食習慣の形成が重要であることを踏まえ、ゆったりとした雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。なお、食物アレルギーのある子どもへの対応については、嘱託医等の指示や協力の下に適切に対応すること。
③　排泄の習慣については、一人一人の排尿間隔等を踏まえ、おむつが汚れていないときに便器に座らせるなどにより、少しずつ慣れさせるようにすること。
④　食事、排泄、睡眠、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなど、生活に必要な基本的な習慣については、一人一人の状態に応じ、落ち着いた雰囲気の中で行うようにし、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重すること。また、基本的な生活習慣の形成に当たっては、家庭での生活経験に配慮し、家庭との適切な連携の下で行うようにすること。

イ　人間関係

他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。

(ｱ)　ねらい

①　保育所での生活を楽しみ、身近な人と関わる心地よさを感じる。
②　周囲の子ども等への興味や関心が高まり、関わりをもとうとする。
③　保育所の生活の仕方に慣れ、きまりの大切さに気付く。

(ｲ)　内容

①　保育士等や周囲の子ども等との安定した関係の中で、共に過ごす心地よさを感じる。
②　保育士等の受容的・応答的な関わりの中で、欲求を適切に満たし、安定感をもって過ごす。
③　身の回りに様々な人がいることに気付き、徐々に他の子どもと関わりをもって遊ぶ。
④　保育士等の仲立ちにより、他の子どもとの関わり方を少しずつ身につける。
⑤　保育所の生活の仕方に慣れ、きまりがあることや、その大切さに気付く。
⑥　生活や遊びの中で、年長児や保育士等の真似をしたり、ごっこ遊びを楽しんだりする。

(ｳ)　内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。

①　保育士等との信頼関係に支えられて生活を確立するとともに、自分で何かをしようとする気持ちが旺盛になる時期であることに鑑み、そのような子どもの気持ちを尊重し、温かく見守るとともに、愛情豊かに、応答的に関わり、適切な援助を行うようにすること。
②　思い通りにいかない場合等の子どもの不安定な感情の表出については、保育士等が受容的に受け止めるとともに、そうした気持ちから立ち直る経験や感情をコントロールすることへの気付き等につなげていけるように援助すること。
③　この時期は自己と他者との違いの認識がまだ十分ではないことから、子どもの自我の育ちを見守るとともに、保育士等が仲立ちとなって、自分の気持ちを相手に伝えることや相手の気持ちに気付くことの大切さなど、友達の気持ちや友達との関わり方を丁寧に伝えていくこと。

ウ　環境

周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。

(ｱ)　ねらい

①　身近な環境に親しみ、触れ合う中で、様々なものに興味や関心をもつ。
②　様々なものに関わる中で、発見を楽しんだり、考えたりしようとする。
③　見る、聞く、触るなどの経験を通して、感覚の働きを豊かにする。

(ｲ)　内容

①　安全で活動しやすい環境での探索活動等を通して、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする。
②　玩具、絵本、遊具などに興味をもち、それらを使った遊びを楽しむ。
③　身の回りの物に触れる中で、形、色、大きさ、量などの物の性質や仕組みに気付く。
④　自分の物と人の物の区別や、場所的感覚など、環境を捉える感覚が育つ。
⑤　身近な生き物に気付き、親しみをもつ。
⑥　近隣の生活や季節の行事などに興味や関心をもつ。

(ｳ)　内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。

①　玩具などは、音質、形、色、大きさなど子どもの発達状態に応じて適切なものを選び、遊びを通して感覚の発達が促されるように工夫すること。
②　身近な生き物との関わりについては、子どもが命を感じ、生命の尊さに気付く経験へとつながるものであることから、そうした気付きを促すような関わりとなるようにすること。
③　地域の生活や季節の行事などに触れる際には、社会とのつながりや地域社会の文化への気付きにつながるものとなることが望ましいこと。その際、保育所内外の行事や地域の人々との触れ合いなどを通して行うこと等も考慮すること。

エ　言葉

経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。

(ｱ)　ねらい

①　言葉遊びや言葉で表現する楽しさを感じる。
②　人の言葉や話などを聞き、自分でも思ったことを伝えようとする。
③　絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる。

(ｲ)　内容

①　保育士等の応答的な関わりや話しかけにより、自ら言葉を使おうとする。
②　生活に必要な簡単な言葉に気付き、聞き分ける。
③　親しみをもって日常の挨拶に応じる。
④　絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣をしたりして遊ぶ。
⑤　保育士等とごっこ遊びをする中で、言葉のやり取りを楽しむ。
⑥　保育士等を仲立ちとして、生活や遊びの中で友達との言葉のやり取りを楽しむ。
⑦　保育士等や友達の言葉や話に興味や関心をもって、聞いたり、話したりする。

(ｳ)　内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。

①　身近な人に親しみをもって接し、自分の感情などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して、次第に言葉が獲得されていくものであることを考慮して、楽しい雰囲気の中で保育士等との言葉のやり取りができるようにすること。